

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委員 委員 称	茅野市博物館協議会専門部会		
開催日時	平成 25 年 6 月 28 日（木） 午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	沖野部会長 北沢副部会長 小池委員 五味委員 茅野委員 名取委員 花里委員 浜委員 両角委員 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷博物館係長 柳川博物館係主査		
欠席者	田中委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
北沢副部会長 若宮八ヶ岳総合博物館長 沖野部会長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷係長	1 開会（博物館係長） 2 協議 事務局で資料 1・2 と用意していただいたので、最初の説明をお願いします。（資料説明） 中に入れている数字はあくまで仮定ということなので、これが目標ということではない。 資料 2 の 2 頁目に「自然系の展示は基本的な流れは変えないが、展示方法を刷新する」「展示は学習指導要領と付き合わせて配置換えを行う」とあるが、これについては、今までいろいろな議論をいただいているので、今度、きのこの特別展を 7 月 20 日から開催するが、その中でも、それにつながるような取り組みを行う予定である。 （特別展「菌類の世界」説明） 特別展では、模型や展示パネルを展示するという旧来の方法とビデオやスライドショーなどで展示を簡単に解説する手法が、近年取り入れられてきており、これを取り入れて展示を行う。展示の大きな構成としてはきのこの図鑑的な部分、カビの図鑑的な部分、暮らしと菌類を紹介するコーナーの 3 つに分類されるが、スマートフォンやタブレットを持ってきた方には、さっと開けるように展示をしていきたい。ただ、これだと持っていない人が見られないではないかということになるが、見られない人には、スライドショー的な、補完的な旧来あったような展示映像装置で紹介していく形にしていきたい。スマートフォンやタブレットで、展示コーナーにあった情報が得られるとなると、自分のスピードにあった速度で展示会を見ることができる。展示だけでは盛り込めなかった展示も紹介できる。さらに発達すれば、電子図鑑として、野外に持って行けるようになるようなものに、やがて成長していくであろうと思う。		

浜委員	<p>講演会の所に、展示を観覧する場合は入館料が必要とあるが、これは、きのこの展示のことを指すのか、館全部の展示を指すのか。また、きのこの同定のところで、「食・毒の判定はしない」とあるが、食・毒についてが一番聞きたいところだが、行わないのか。</p>
大谷係長	<p>講演会のお知らせのところで、「展示を観覧する場合は入館料が必要」とある。これは、講演会は無料で聴講できるようにしたいということだ。館内の展示を見たいという人には、通常入館料を払って入館して欲しいということである。</p>
浜委員	<p>食・毒の判定については、今回はしないことにした。きのこの判定は非常に難しいので、食・毒がわかっていないものもあり、毒がないと言われていたものが、実はあったということもあるので、今回は、「菌類の世界」なので、きのこの生態やきのこの名前などの同定会にしたいと思っている。</p>
大谷係長	<p>絶対食べられるというのは、教えてもいいのではないかと考えている。基本的には食・毒の判定はしません。食・毒の判定については、保健所が鑑別相談するという企画があるので、そちらの方にできるだけ委ねたいと考えている。</p>
名取委員	<p>保健所で秋に鑑別相談を行うが、これに合わせて企画することができるか。</p>
大谷係長	<p>あえてそれに関連づけないようにし、保健所の鑑別相談とは敢えて違うスタンスで行う企画とした。</p>
北沢副部長	<p>それでは、まず、資料1について、ご意見を出していただきたい。八ヶ岳総合博物館の今後について議論してきたが、不可能なことも含まれているが、できるところからやっというスタンスでやってきている。</p>
五味委員	<p>(方針について)</p> <p>「方針」のこうありたいとイメージはよくわかるが、これまでの25年間とこの先の25年間を考えていくと、こういうスタンスで行くと、今までの25年間というものは、成功なのか失敗なのかといことになる、失敗の方だと思う。これからの25年を考えると、ここで建てた計画は失敗だったのではないかなるような気持ちでいる。どうなれば、意味ある価値ある博物館になるのか、という視点で考えていくと、今回は、博物館ありきの資料になっている。</p> <p>では、どうなればいいのか。それは、まず、「開かれた博物館」と資料にあるが、どうなれば開かれた博物館になるかという評価指標がない。これを、陰で用意しておかないとまずいと思う。</p> <p>地域に博物館がいくつもあるが、他の博物館との差別化はどうできるか。あるいは、鋭意作ろうとするので、地域のセンターになりうるのか、そのくらいの思想で取り組まないと、しょぼいものができれば何にもならない。</p> <p>4頁目の「事業の具体的展開」にメリハリが付いていない。たとえば、メリハリの付け方だが、現在やっていることで今後も続けようとする、現在あるけれど充実させ変更させていくことに属するもの、新規に取り組むもの、といったように整理をしていかないと、よくわからない。</p> <p>いまやっていることが問題なのか、ないことが問題なのか、やっているけれどやり方がまずいのか、そのようなものが一切わからない。</p>

	<p>たくさん事業の項目があるが、実現可能性があるかどうかということをおくとして、これで引きつけられるのだろうか。もっとしぼらないとならない。</p> <p>評価指標について、市内の小中学生が必ず1回か2回、各学期1回は来るとか、そのようなことを盛り込まないといけないのかとか、あるいは、茅野委員市民5万人いるが、少なくとも市民2万人が見に来るとか、そういうところを、引き出すのは、何をすればいいのか、何があれば来るのかこのようなことを考えなければいけないと思う。</p> <p>学校のカリキュラムで博物館に来ることを制度化できるか。制度的に可能でも、博物館に行ってもしょうがないということになればいけないので、ここに来たいという機能や何かセットされているのか。こういう観点で計画づくりをしないとまずいということを感じた。</p> <p>現状では、人がいないとできないと議論されているが、人の問題だけではないと思う。ボランティアの人がやっているようだが、それをやって身になっているのか、と思う。</p>
北沢副部長	<p>今、発言があったが、特に3点目の評価基準はどうなっているのか、たくさんある博物館との差別化、地域センターとしてどうしていくかという視点はどうなのか、事業のメリハリをつけていかないでたくさんあれもこれもやっていきたいと言っているが、事業を進めるにはメリハリをつけないと進めようがないのではないかということだった。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>五味委員がいったように、整理し直すが、どう反映していくかというためのたたき台なので、委員の皆さんの意見を反映するために、忌憚のない意見をお願いしたい。</p>
北沢副部長	<p>五味委員の発言を念頭に置きながら、資料についての検討に移りたい。方針について、これまで出されているが、改めて、意見をいただきたい。</p> <p>「1 開かれた博物館」のなかの「市民と社会に貢献する活動」に凝縮されているということだろうと思う。「快適で安全・安心な施設」というのも、利用者のニーズにこたえる施設にしていきたいということだが、この2行目に「市民の活動拠点、市民の学びの場、子供たちの学びと遊びの場」とあるが、この「遊び」とは、どのようなイメージで書いているのか。</p> <p>むしろ、ここでは「市民や子供たちの学びの場、活動の拠点として」というふうにさらりとしてみると、してみた方がいいと思う。</p> <p>3行目の「多様な利用者のニーズ」は「利用者の多様なニーズ」なのか、「いろいろな人のニーズ」なのか、わかりにくい。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>「学びと遊び」と書いたのは、遊びの中から学べるようなということで、深くは考えてはいなかった。あと、「多様な利用者のニーズ」であるが、「利用者の多様なニーズ」ということだ。</p>
北沢副部長	<p>学校教育でも、この「遊び」というのは、特に小学校低学年の場合は、遊びを通して学んでいく「遊び学習」を取り入れていく時期があった。そういうことを意識しているのかと思った。</p> <p>「2 体験する博物館」であるが、「自然の理解」というのを、「自然に親しみ理解を深める」と、「親しむ」という理解が欲しいと思う。</p> <p>「星空体験」も、市民参加を冒頭に出したらいいのか、あるいは、現在の場所でいいのか。「市民参加」を大事に考えていると思うので。</p>

若宮八ヶ岳総合博物館長 浜委員	事前に五味委員から連絡があり、事前にプラネタリウムの説明に関連して、これからは「参加型」を打ち出した方がいいという意見があった。
北沢副部長 浜委員 沖野部長	青少年自然の森は市内の小中学校が、必ず1回1泊の体験をするようになっている。昔1回親子で星の観察会を行ったことがある。この時は、親が喜んだ。これと同じように、博物館に1年に1回参加するようになるということも検討できるし、青少年自然の森で観察会を開催する時も、こちらから出かけて行って、天文の勉強もできるかなと思う。 市民参加というのを前面に出していったらどうかという意見か そうだ。 市民参加、公民協働・市民協働を冒頭に1行入れておけばよかったかと思う。最初に項目分けをしたので、総合的な方針がわかりづらくなってしまった。
名取委員	これまで博物館は活動してきたわけなので、これまでどこまでできてどこができなかったのか、何が足りないのか入れて、今後展開するときには、ここを重点的にやるとした方が、わかりやすいのかと思う。 五味委員の最初の提案から考えてみた。五味委員は、人が来るのか来ないのかということを重点的に考えていると思うが、今までの議論は、こういう点で不備があったから、こうしたらいい、ああしたらいいということが、項目でまとまっていた。これはこれでいいと思うが、具体的な絞りかたを問われることになると思う。具体的に何かというと、「市民参加」ということと、もっと絞ることも、具体的になると思う。
北沢副部長 沖野部長	先ほど沖野部長も言ったが、最初に項目から入ってしまっているのも、その中での発言か。スローガンを前に出してはどうか。 スローガンは、方針を受けて立てられるので。学校教育の支援という所も、具体的に学校に博物館担当者をつけてもらうとか、そのような所から始まる。そのような具体性があった方がいいのかもしれない。
北沢副部長	「4 つなげる博物館」の中の「人をつなげる」というところでは、熱心に博物館活動に参加してきた方々を、どのようにつなげていったらよいか課題かなと思う。その方々の努力を認め、その方々には、さらに南かして、博物館活動を応援していただくという気持ちを盛り上げていくようなことも考えていかなければいけない。 「学ぶ」ということで、博物館に来た時に知的な意味の場が博物館である、1日そこにおいて、知的好奇心を駆り立てるような場が欲しい。知的な憩いの場としての博物館にすることを盛り込みたい。
沖野部長 茅野委員	(スローガンについて) 4項目ではなくて、2項目にならないか。 方針の4項目を受けてスローガンが4項目になったのではないか。 総合的にするならば、スローガンを最初に出せばいいのではないか。 私もそう思ったのだが、スローガンを最初にして、項目を建てていけばいいのでは。項目と特色は具体的になっているように、例としてあげれば五味委員の提案のように評価基準となるのではないか。
北沢副部長 沖野部長	项目的に少し整理して書いた方がわかりやすいと思う。 もう少し短くした方がいい。スローガンの「活動を市民とともに展開し」

	<p>というのは、2 項目目と重なるので、まとめて、一番最初に持っていくと分かりやすい。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>まとめて整理する。</p>
名取委員	<p>スローガンなら、「参加し、体験し」という表現を入れた方がいいのではないか。</p>
沖野部会長	<p>内容を全部入れてあるので、これをもとにして、まとめてもらえばいいと思う。事業の方は何ができていて、何ができていないかというのはわかっているのだから、割り振ればいい。新規に展開するには、何を付け加えるか。</p>
小池委員	<p>天文はかなり具体的に解るが、そのほかの自然分野について、同じように具体的に表現していった方がいいのではないか。</p>
沖野部会長	<p>小池委員が言ったように、各部門の展示はどういうものがあるって、その後はどう変えていく方がわかった方がいいと思う。自然の所に部門のことが出てこないから、今までの事業がないような感じになってしまう。</p>
	<p>(事業について)</p>
北沢副部会長	<p>「事業」の中の「1 調査研究活動 資料の収集保管活動」のなかのことか。</p>
沖野部会長	<p>そうだ。</p>
北沢副部会長	<p>ここに「自然資料（一次資料、二次資料）」の収集とあるが、今まで、収蔵資料の系統的な収集・保管・活用の仕方の研究というのが、話題に出てきたと思うが、その中に一次資料・二次資料の中に意図が入っているのか。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>二次資料というのは、実物ではない写真などということを書いたものだ。</p>
北沢副部会長	<p>資料の系統的な収集・保管・活用の研究というのは、これから先、重要なことだと思うので入れてもらった方がいいと思う。「諏訪の理科教育の歴史」については、カットしてもいいのではないかと。というのは、こういうことは、諏訪教育会で 100 年史のときにずいぶんやってきた。ただ、カットした代わりに資料の系統的な収集・保管を体系的にどうしていくかという事業内容を入れていけばいいのではないかと。</p>
茅野委員	<p>できるだけ削って、五味委員が言ったようにスッキリした方がいい。理科教育の歴史はとても大変なことで、すぐにできるものではない。</p>
北沢副部会長	<p>ここはカットしてもよいか。</p>
沖野部会長	<p>連携ということもあるから、カットしてもいいのではないかと。これについては、教育会に委ねるとか、そういうことでもいいと思う。</p>
北沢副部会長	<p>諏訪教育会館もあることなのでいいのではないかと。</p>
両角委員	<p>博物館と教育会館は分けた方がいいと思うので、カットしてもいいと思う。教育会でやっていることを、今更博物館が拾い出してやることではないと思う。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>今までの歴史を踏まえてという議論があったので、入れてみた。</p>
北沢副部会長	<p>「博物館だより」で市民とつながるようにできないか。紀要と年報だと市民が離れてしまうので、もう少し市民とつながるようなものは年に何回</p>

浜委員	か発行できないか。 各地区公民館には、学習部というものが必ずある。この学習部が博物館を借りてここで活動することもできないか。このような活動をしましたと、市民に知らせるといったこともいいのではないか。
北沢副部長 両角委員	広報は月何回出しているのか。 現在月2回出しているが、月1回にするという議論がある。催し物のお知らせなど載っているが、箇条書きで載っているだけだ。広報に目玉的なものが載ればいいと思うが。
北沢副部長	博物館のボランティアが、博物館だよりなど作ればユニークなものができると思う。
沖野部長 小池委員	新聞の方が催し物について書いてある。 博物館で、2か月に1回、学習会員対象の「博物館だより」を発行している。
北沢副部長 小池委員 名取委員 茅野委員	その中の一つを広報にはさんでもらえればいいと思う。 学習会員になった人でないと分からない。 今のことは、事業で別項目として立ててもいいと思う。 五味委員の言う通り、5万人のうちの2万人入れるという手段ということになるのではないか。
名取委員 北沢副部長 大谷係長	マンガ入りのチラシなら受けるのではないか。 尖石縄文考古館の普及啓発活動はどうなっているのか。 各地区にポスター10枚とチラシ1部を配布している。茅野市の公共施設に同じくらい配布している。図書館や公民館は多めに配布している。郡内・県外の教育委員会・博物館にも配布している。余裕があれば小学校に家庭数の配布する場合がある。
茅野委員 大谷係長 北沢副部長	それは、子供を通じて家庭に配布するということか。 子供を通じて各戸配布したこともある。 全家庭に配布するのは無理ということか。一般の人の目に入るようにだせればいいかと思う。不特定多数に渡せればいいと思う。
大谷係長	文化財課の情報がわかるものを配布しているが、最近、配布物を減らしてほしいという要望がある。現在では回覧に入れている。回覧にしても地区の負担が大きく、できるだけ、広報に内蔵してほしいと言われているが、博物館だけで誌面を占有することは難しい。
小池委員	エコツーリズムの活動を私は行っているが、それに参加する人に、何を見て参加したかというアンケートを取ると、「広報ちの」を見てきた人はとても少ない。大体地元新聞を見てくるので、新聞に掲載した方が有効である。
両角委員	ホームページにメインで載せてもらえるシステムにすればいいが、制限があるので、箇条書き程度しか載らないので、ホームページの価値がない。
大谷係長	ホームページは容量が莫大なので、なるべく簡素にしてほしいといわれている。
沖野部長 大谷係長 沖野部長	独自のホームページは持てないか。 今のところ持てない。 博物館独自のホームページを作るという要望を出していいかもしれない。

	(事業の具体的展開)
両角委員	出前事業多くやることになっているが、どのような意図か。
若宮八ヶ岳総合博物館長	館活動が博物館内だけでとどまるのではなく、アウトリーチ的な活動も非常に重要であると考え。来るのを待っているのではなく、こちらから出て行って、それよりレベルの高いことをやるために、博物館の方へ来てもらうということができる活動をする、ということが、出前事業である。
両角委員	逆の弊害で考えると、出前してくれればいいということで、博物館へ来なくてもいいということにならないか。今日星空観測の出前講座のチラシをもらったが、本来の施設に人を呼ぶことを先に行っているか、それをやらないで、出前講座をやるのは、困ることになるのではないか。出前講座が、人を呼ぶ手段としての意図でやっていけばいいが。そういう観点でなければ、出前講座をやるのは弊害だ。
若宮館長	出前もあるということで幅広くやりたい。
小池委員	窓を広くということだ。
浜委員	博物館が諏訪東京理科大学に講座を依頼することもあるか。
若宮八ヶ岳総合博物館長	現在は理科大の部屋を使わせてもらったり、市民研究員養成に理科大の先生を頼んでいる。
	(スペースについて)
沖野部会長	資料2の1頁の図は、どれをどの施設に入れるか不明瞭だ。用途によって、建物の大きさが変わっていくと思う。これは、これらか先に考えていけばいい。
若宮館長	基本構想に進んで行ったときに、スペースを決めていかなければならないが、現在、その段階まで進んでいない。たとえば、今の講堂であるが、多目的な部屋とし、映像的なものも使う部屋にすれば、養川コーナーをここで扱い、養川コーナーが空けば、ここに文芸的なものを持っていく。そうすれば文芸館を特別展示室に戻せる。
北沢副部会長	今は、実施計画の段階ではなく、基本計画のさらに前段という所にとどまるのか。
大谷係長	特に制限は設けてないが、確約したことが言えないので、踏み込んだ議論が現状ではできない。答申がどうなるものになるのかわからないが、積み残したことは、庁内協議が必須なものになってくるだろう。
	(資料2の説明)
沖野部会長	今日、いろいろ意見をいただいたが、他に意見があれば、電話やメールなどで、また連絡をいただきたい。この資料がそのまま答申になるわけではないので、事務局でとりあえずまとめたものである。
若宮八ヶ岳総合博物館長	
北沢副部会長	今日の議論の全体で何かあれば。
茅野委員	資料1の4頁の事業内容を見ると、かなりのボリュームである。5頁の学校対象でも、ボランティアをお願いするにしても、一人は学芸員が必要だと思うが、7頁の所の組織で学芸員の人数が少なすぎると思うので、もう少し、多くして要求できないか。
小池委員	3年計画・5年計画・30年計画とあるが、今いる子供を大切に、これだけのことができるということですが、この3年間5年間はいいの

	かということになる。そのためには、学芸員を来年も要求して、今いる子供にも、市民研究委員のようにできることからやった方がいいのではないか。
名取委員	「具体化」というのは、学芸員の人数にもかかわってくると思う。
	ここで、しっかりと出した方がいいと思う。
北沢副部長 両角委員	指導主事をというよりは、学芸員をということだ。 基本構想で、自然系3名になっているが、この間、館長の天文の説明の中で、天文系だけで3名いるということだったが、もっと必要ではないか。基本構想以上に自然系は必要だと思う。
浜委員	「組織」で人文系4名となっているが、人文系でも検討を進めているのか。
若宮八ヶ岳総合博物館長	今は人文系の検討はしていない。将来的には、科学教育センター、自然の展示が終われば、人文系の展示も同じように検討していかなければならないだろう。
沖野部長	他の博物館との棲み分けについて明確に書いておいてもいいかもしれない。キットの貸し出し事業はあるが、それを作る母体がない。キットを作る市民グループの育成事業も入れた方がいいかもしれない。
若宮八ヶ岳総合博物館長	それが、今行っている科学実験グループだ。そのため、理科大の木村先生にお願いしている。
沖野部長 小池委員	それを文章に入れた方がいい。 我々は科学関係の諮問を受けているが、博物館には、歴史・民俗・産業・文芸という部門があり、市民の中にその分野に興味を持っているものがあるが、自然だけだと捉えられては困る。現在、収蔵庫に多くの収蔵品があるが、これが全く生かされていないという現実がある。今の自然の関係でやっている、手が回らないのではないか。5年・10年と自然に関わっていると、そちらのほうに手が回らないのではないか。
沖野部長	文芸館・民芸館と書いたが、古民家の移築・寒天蔵の移築の方が早く通るという可能性もあるのではないか。そこができることによって、他も動きやすくなると思う。これは、できれば早くやった方がいいと思う。
小池委員	今、自然関係の市民研究員が始まっているので、人文系の市民研究員も始めた方がいいのではないか。
	(今後の予定について)
沖野部長	一度骨格を作って、一回部会で検討したい。それまで、意見を事務局に知らせていただきたい。
	その他、委員から特に意見等はなく、次回も引き続き報告書について議題に審議を進めることで了承された
	2 次回開催予定
	7月23日(火)午後6時から開催することが承認された。
	閉会～午後8時 終了～